

主催：日本ソルフェージュ研究協議会

## 第2回 ワークショップ

# 授業を通してソルフェージュを考える

昨年、好評いただきました新企画のワークショップを今年も開催致します。音楽教育現場で行われている授業は様々な視点によって興味深い内容が展開されていると想像されます。今回の企画では音楽家として活躍されているお二人の講師を迎えて、それぞれ実際どのような工夫をされているのか、そのノウハウをご紹介いただきソルフェージュの可能性を皆様と共に考えていきたいと思ひます。

日時：2015年 **9月6日** (日) 午後2時開演

会場：桐朋学園大学音楽学部 調布キャンパス 1号館 C008

### 鷹羽 弘晃 (たかは ひろあき)



2001年桐朋学園大学作曲理論学科卒業。2009年より、パリ・エコール・ノルマルに留学。作曲のDiplome Supérieur取得。第68回日本音楽コンクール作曲部門入選。作品は、日本音楽集団、東京混声合唱団、アール・レスピラン等によって演奏されている。ピアノ演奏では1999年第9回日本室内楽コンクール第1位(ヴィオラとの共演)。指揮ではアンサンブル・ノマド、アンサンブル室町等に客演。ピアノ演奏も含め、多くの初演に携わり現代作品を中心に活動。コンテンツポラリー・αメンバー。現在、桐朋女子校等学校音楽科教諭及び桐朋学園大学音楽科非常勤講師(ソルフェージュ部会所属)。

### ◆ソルフェージュから試みる現代音楽のアプローチ

近年、いわゆる「現代音楽」は演奏家にとってより身近なものになってきたと言えよう。しかし、その演奏には通常のクラシックの作品とは違った「ソルフェージュの引出し」が要求される場合がある。例えば、微分音や特殊奏法による新しい音響に対する感覚や、特殊な記譜の読み方など、演奏家には知識と慣れが必要である。ここでは、現代音楽のスタイルをいくつか取り上げ、どのようなソルフェージュの授業展開の可能性があるのか、実践例をあげながら考えていきたい。

### 荒尾 岳児 (あらお かくじ)



東京大学文学部卒業後、東京藝術大学音楽学部作曲科を経て同大学院修士課程作曲専攻修了。作曲・編曲と並行し、アンサンブル・ピアニストとして活動中。共著・参加作品として、『音楽史からみたリズム・スタディ』(全音)、『新曲視唱523』(カワイ出版)、『本当に役立つ! ピアノ練習法74』(リットー)、CD『マタドール〜情熱のハーモニカ/和谷泰扶』(ナミ・レコード:ピアノ・編曲)など。現在、東京音楽大学准教授、日本ソルフェージュ研究協議会理事。

### ◆音楽大学におけるソルフェージュ初学者への学習サポートを考える ~聴音を中心に

学習の開始が遅いなどの理由で、ソルフェージュに関して初学者の段階にとどまる学生を指導するにあたっては、相応の重点的なケアが不可欠である。ソルフェージュ能力の向上のためには普段からの継続した学習が必要であり、その必要性への意識を学生に喚起し、自発的な学習を促すために、どのような工夫が可能だろうか。インターネット環境などを取り入れた、報告者自身の授業内での実践方法の紹介を軸に、多角的でより実効性の高い指導方法のあり方を考察する。

### ▼入場料：

一般 3,000円  
学生 1,000円  
賛助会員 1,500円  
(会員無料)

### ▼問い合わせ先：

日本ソルフェージュ研究協議会事務局  
Tel. 090-5566-8567  
E-mail: ni-sol-ken@island.dti.ne.jp  
<http://www.ni-sol-ken.com/index.html>

